

カリキュラム(計画) 日本語指導が必要な児童生徒等支援研修会(焼津市)

作成者：南里 哉子

養成・**研修** / **基礎**・**専門**・**支援員** (該当するものに○)

★参照したモデルプログラム NO. (報告書 pp. 207-244) 下線：内容・項目 (pp. 72-76)

| 日時・場所 | 平成30年8月28日(火) 15:00~16:30 (90分) 於:焼津市役所大井川庁舎 | | | |
|---|---|----|-------------------------------------|--------|
| 実施団体・機関 | 焼津市教育委員会 | | | |
| 研修・授業名 | 平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会 | | | |
| 受講者 | ・人数：57人 ・受講者の立場： 加配教員6人(小4中2)・外国人等担当教員17人(小10中7)・市町任用支援員32人 | | | |
| 演題・テーマ☆ | 誰でもできる！特別の教育課程 ☆研修内容(報告書 pp. 72-76)を反映 | | | |
| 到達目標 | 特別の教育課程編成に対する不安をなくし、様々な立場からの関わりを意識しながら編成できるようになる。 | | | |
| 活動展開 (分) | ★ | 形態 | 留意点 | 参考資料 |
| 導入： ○焼津市の現状、方針を話してもらおう：(10分) 1) 特別の教育課程編成は、支援に関わる人たち全員で考えたいこと 2) 日本人と同じように外国人児童生徒を指導していく必要性 3) 日本語で日本語を教える必要性 4) 高校への進学率 など | ③ | 講義 | 焼津市教委担当 | 統計資料など |
| 展開： ○「個別の指導計画」作成の必要性を確認する(10分) 日本語指導の「特別の教育課程」としての編成・実施に関する資料を確認し、「個別の指導計画」の作成の必要性を理解する。 ○「個別の指導計画」の構成要素を理解する(15分) 「個別の指導計画」例から、把握・決定し | ⑱ | 講義 | 南里担当 p 240 加配教員の定数化など、国の施策の説明 | 国の資料 |

| | | | | |
|--|--|---------------------|--|----------------|
| <p>なければならない事項について理解する。</p> <p>1) 対象 ：実態把握とその必要性、関わる人など</p> <p>2) 内容と組み合わせ ：日本語プログラムについて説明</p> <p>3) 誰がどのぐらいの期間、どのぐらいの頻度で教えるか</p> <p>○「個別の指導計画」を設計する（25分） 次の児童生徒のいずれかのタイプについて「個別の指導計画」（大枠）を作成する</p> <p>A：来日直後の小2（フィリピン） B：来日直後の中2（中国） C：滞日期間3年の小5（ネパール） D：滞日期間3年の中3（ブラジル） E：日本生まれの小3（ベトナム） F：日本生まれの小6（ペルー）</p> <p>まとめ： ○「個別の指導計画」作成の上で考慮すべき点を理解する（20分）</p> | | <p>活動</p> <p>活動</p> | <p>焼津市で作成している様式を使用する。</p> <p>※焼津市は支援員の能力によってプログラムの何を担当するか決定している</p> <p>・作成するのは主に教員。支援員には児童生徒情報カードを渡し、相談しながら作成してもらう</p> <p>・最低2つのタイプで作成する</p> | <p>来日時期別一覧</p> |
|--|--|---------------------|--|----------------|